

特集 プレゼンター

「コミュニケーション能力」 —プレゼン大会がとりも



1. 東西交流の発端

東京と大阪のプレゼンテーションへの取り組みは、偶然にもどちらも2003年度より始まりました。東京のプレゼンピックと大阪のICTプロジェクトが交流を持つきっかけとなったのが、1冊の冊子でした。2年目を迎えた2004年度に東京の教員が『プレゼン甲子園2003』という冊子を偶然手に取り、スタンスの違いはあるものの高校生のコミュニケーション能力育成という点で共通項があることに気づきました。東京と大阪のプロジェクトの交流を通して教員ネットワークが構築できないかと考えて、お互いに教員を派遣しあう相互交流が始まりました。

2. 東のプレゼンピック

2003年度より教科「情報」がスタートし、新しい取り組みの第一歩として、学校の枠を超え同年代の考え方や知識を共有することを目的として協働プレゼンテーションの授業を実施しました。外部への扉を閉じて閉鎖的になりがちな学校教育をオープンにすることで、生徒も教員も向上心をもって楽しく学ぶことができるのではと考えました。教師からの一方的な働きかけで生徒の学習意欲を引き出すことは大変です。そのソリューションとして他校との交流を設定し相互に切磋琢磨しあう学びの場を提供することに踏み切りました。

生徒がお互いに面識をもつための「オリエンテーション」から始まり、BBSやメール、Webカメラを活用して、テーマに沿った研究課題の進捗状況を相互に報告し情報の共有化を進めます。最後の「プレゼンピック」ではその成果を発表します。当日、会場に来られない遠隔地の生徒のためには、ネットワークカメラを活用して参加できる仕組みも作っています。

ーシヨンの意義と活用

力育成へのアプローチ」

つ東西の教員交流ー

羽衣学園中学・高等学校教諭 米田 謙三
東京成徳大学中学・高等学校教諭 増澤 文徳

3. 西のプレゼン甲子園

「ICTプロジェクト」は、「高校生の情報・国際化に対応するコミュニケーション能力育成に関する実証研究」を目的に始まりました。大阪の私学に通う数校の高校生が、5月頃から4～5回のセッションを通して、コミュニケーション能力を磨きます。そして秋に「プレゼン甲子園」と名づけた発表会でしめくります。2003年は「一日バス旅行」をテーマに参加チーム対抗で競い合いました。私たちの考えるプレゼンとは、「アイデンティティーの表現」と言えます。「自分らしさ」をもって話ができることが大切なのです。何度か回を重ねて他人を知り、同時に自分を知る機会や場が設定されれば、徐々に自己と他との違いに気づき、結局自分がわかってくるようです。プレゼンとは、何かを上手に説明して説得するテクニックだと考えて活動している企画もありますが、大阪私学の目指すプレゼンとは、自分らしさを素直に出しながら自然体で人に話ができることなのです。

4. これからの発展的課題

東京・大阪地区で『プレゼンテーションの意義・活用』という課題解決を大きな柱とし、教育の情報化を実現するコミュニティを地域の枠を超えて築き上げていこうとしています。その背景には、ネットワークと対面のそれぞれの特性を活かした運営上の工夫が盛り込まれています。ネットワーク上で「匿名性や公開性を活かした情報共有」を図り、対面の場では、公開授業、意見交換会といった「密度の濃いコミュニケーション」を続けてきました。生徒達のコミュニケーション能力向上とともに、東京と大阪の生徒や教員間交流が一層深まることを楽しみにしています。

